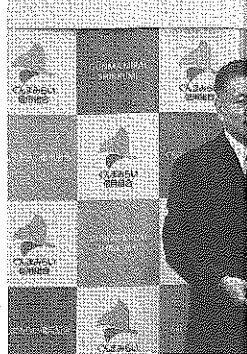


消費支出が「家計収入」の現状と今後についてを数値化したもの。景気の動きは、現状実績を見ると、DI値(良

ぐんまみらい信 連携協力



協定書を持つ

は同様の協定を結んでいしたが、信用組合とは今回が初めて。

同日、ぐんまみらい信組本部で行われた協定書調印式で小林理事長は

支店のまとめによると、2月の県内企業倒産(負債総額1000万円以上)は8件だった。前月比では変わらず、前年同月比4件の増加だった。

インさん(23)が作業に従事しており、有機農業のノウハウ取得への意気込みが感じられた。「彼女たちを単なる労働力とはみていません。彼女たちには有機農業のノウハウをしっかりと学び、故郷で有機農業を営める先駆けになつてほしい」と考えています」と飯野氏は語る。

業種別にみると件数が最も多かったのは製造業とサービス業他の各3件で、次いで卸売業、不動産業がそれぞれ1件だった。

同支店では「当面、企業倒産が急増する要因は見当たらないが、人手不足が直接、間接に影響し

「オーガニック」の伝道師として

粕川から世界を展望する

プレマの飯野社長

EO、女性未来農業創造研究会理事、日本ヒーリングフード協会代表理事、ホリスティック・ヘルスカウンセラーとして精力的に活動するスーパー経営者がいる。シリアル・アントレプレナー家に育った飯野晃子氏は、オーガニック農業とヒーリングフードを武器にグローバルマーケットでの飛躍を誓う。

飯野氏は現在、家族を東京に残し、群馬と東京を往復する忙しい生活を送りながらも、精力的にプレマ(前橋市粕川町下東田面303-4-027-285-3314)の社長業と有機農業のEバンジエリスト(伝道師)活動に力を入れている。「オーガニック一筋」を公言してはばからない飯野氏のルーツは大学時代に1人暮らしをしたことだったという。1人暮らし

しを始めて「食と健康の大切さ」に目覚めた飯野氏は、大学院で農業を専攻し、「インドの有機農業」を調査・研究するようになった。

大学院を卒業後、ナチュラルハウスでオーガニック原料や伝統製法にこだわった健康食品の商品開発を担当し、06年にプレマに転身。当初は商品開発などを担当したが、15年に社長に就任した。

社長業以外にもさまざまな顔をもつ飯野氏に女性社会参画を支援するための

性社会参画の難しさについて尋ねると、「仕事とプライベートは別と言っても、女性はプライベートに引きずられる。女性働きやすい環境を整備することが大切」と指摘する。

しかし、県の女性の参画や活躍は内閣府の項目でみると進んでいないのが現状だ。「子育てと社長の両立などは、家族などの協力と支えがあつて初めてできること。家族だけでなく、企業や地域コミュニティでの女性の社会参画を支援するための

仕組み作りや意識改革の必要性を強調する。一方、飯野氏は自社の成長ストーリーにも食欲

で、すでに世界戦略への地ならしを始めている。15年に策定した「プレマ・オーガニック・ドリマ・オーガニック」と名付けた中期経営計画の第1、第2フェーズで、土壌改革、組織改革、雇用改革を行った。

ジェンダー平等と女性の社会進出を支援する観点から、社内規則を整備し、育児に関連する休暇の取得などにも柔軟に対応するほか、短時間労働も積極的に受け入れる態勢を整えた。

また、17年に生産チーム初の女性の正社員として、角田咲恵さんを新卒で採用。さらに、ダイバーシティ・グローバル人材の登用にも積極的で、17年から外国人技能実習生の受け入れを始めた。

取材当日はベトナム出身のホアさん(23)と外にオーガニック農業や

所有する圃場では、すべて有機JASの認定を受けているが、海外市場進出を念頭に18年中のグローバルGAP取得を目指す。さらに、スマート農業システムの導入を計画するなども、ブランド力と付加価値を高めるための、あらゆる戦略オプションの活用にも意欲的だ。

飯野氏は、女性の社会参画、ダイバーシティ

女性の社会参画が遅れていると言われる本県に、代表取締役社長、C



自慢の小松菜を持つ飯野社長

「子育てと社長の両立などは、家族などの協力と支えがあつて初めてできること。家族だけでなく、企業や地域コミュニティでの女性の社会参画を支援するための

さらに、スマート農業システムの導入を計画するなども、ブランド力と付加価値を高めるための、あらゆる戦略オプションの活用にも意欲的だ。

飯野氏は、女性の社会参画、ダイバーシティ

「世界にプレマの商品を届けたい」と語る飯野氏が掲げる「海外からも認められるモデル有機農場」の今後の展開に注目したい。



男女の特性を生かすためチームで作業する

(関彦彦)